

安全データシート（SDS）

2017年6月27日 製作
2023年2月1日 改訂

1 製品及び会社情報

製品の名称 : JTC強力パーツクリーナー（粉末）
会社名 : JTC Auto Tools株式会社
住 所 : 〒745-0802 山口県周南市大字栗屋332番地4
e-mail : info@jtcautotools.co.jp
FAX : 0834-36-0010

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性物質	区分外
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	
急性毒性（経口）	区分4
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
急性毒性（吸入：粉じん）	区分外
急性毒性（吸入：ミスト）	区分外
皮膚刺激性・皮膚腐食性	区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
呼吸器感作性	分類できない
皮成感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	区分外
生殖毒性	区分2
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分1（血液）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分2（腎臓、血液）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	
水生環境急性有害性	区分2
水生環境慢性有害性	区分2

絵表示又はシンボル：



注 意 喚 起 語 : 危 険

注 意 喚 起 語 ： 危 険

危険有害性情報：・重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷（H314、皮膚腐食性・刺激性 区分1）

- ・重篤な眼の損傷（H318、眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分1）
- ・全身臓器の障害のおそれ（H371、特定標的臓器毒性（単回ばく露）区分2）
- ・水生生物に毒性（H401、水生環境急性有害性 区分2）

注意書き：【一般】

- ・医学的な助言が必要などときには、製品容器やラベルを持っていくこと。（P101）
- ・子供の手の届かないところに置くこと。（P102）
- ・使用前にラベルをよく読むこと。（P103）

【安全対策】

- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。（P260）
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。（P264）
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。（P270）
- ・環境への放出を避けること。（P273）
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。（P280）

【応急措置】

- ・飲み込んだ場合：ロをすすぐこと。無理に吐かせないこと。（P301 + P330 + P331）
- ・皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。（P303 + P361+P353）
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。（P304 + P340）
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は 外すこと。その後も洗浄を続けること。（P305 + P351+P338）
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。（P308 + P311）
- ・直ちに医師に連絡すること（P310）
- ・汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。（P363）

【保管】

- ・施錠して保管すること。（P405）

【廃棄】

- ・内容物/容器を国際、国、都道府県、又は市町村の規則に従って廃棄すること。（P501）

3. 物質の特定

単一製品・混合物の区別：混合物
成分及び含有量：

成分	含有量(%)	化審法No.	CAS. No.	備考
界面活性剤	5.0～15.0	登録済み非開示	登録済み非開示	
キレート剤	40.0～50.0	登録済み非開示	登録済み非開示	
硫酸塩	15.0～25.0	登録済み非開示	登録済み非開示	
炭酸塩	10.0～20.0	登録済み非開示	登録済み非開示	
防錆剤	10.0以下	登録済み非開示	登録済み非開示	

4. 応急処置

吸入した場合：	空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合：	医師の診断、手当てを受けること。 皮膚を速やかに洗浄すること。 医師の診断、手当てを受けること。 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。
目に入った場合：	水で15分以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外すこと。 その後も洗眼を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：	無理に吐かせず、口を水ですすぐこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。
予想される急性症状：	眼に付着した場合、直ちに洗眼しないと失明の危険がある。
及び遅発性症状	皮膚に付着した場合、直ちに洗浄しないと皮膚炎を引き起こす危険がある。
最も重要な兆候及び症状：	知見なし。
応急処置をする者の保護：	知見なし。

5. 火災時の措置

消火剤	： 水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂
使ってはならない消化剤：	情報なし
特有の危険有害性	： 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	： 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、	：保護具及び緊急漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしないこと。
保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。 関係者以外の立入りを禁止すること。 作業者は適切な保護具（8. ばく露防止及び保護措置の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸引を避けること。 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用すること。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れないこと。 少量の場合はウエス等で拭き取ること。 多量の場合は、土砂等で流れを止め、出来る限り回収し、残分はウエス等で拭き取ること

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い：眼、皮膚及び作業者との接触を避ける。スプレー状で使用する時は、風上に立って作業する。取扱い後は、手洗い、洗顔を十分に行うこと。
- 保管：子供の手の届かないところに施錠して保管すること。
袋は、チャックで密封して保管すること。
直射日光の当る所、温度が40℃以上又は0℃以下の所、水のかかる所、湿気の多い所は避けること。
車載保管しないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策：取り扱い場所近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示すること。

許容濃度：設定されていない

保護具

呼吸器の保護具	：防塵用マスク
手の保護具	：ゴム手袋
眼の保護具	：ゴーグル型一眼眼鏡
皮膚及び身体の保護具	：作業着、ゴム長靴、ゴム前掛け等を使用

9. 物理／化学的性質

外観・臭気	: 淡白色～白色の粉末で、特異な弱い臭気を有する。
pH(10%/1%)	: 約11、4／約11.1
粘度（25℃）	: データなし
沸点	: データなし
揮発性	: データなし
引火点	: データなし
発火点	: データなし
爆発範囲	: データなし
可燃性	: データなし
見掛け密度	: 約0.79
溶解性（水）	: 5～10%ほとんど溶解、1%以下で完全溶解する。

10. 安定性及び反応性

安定性	: 通常の状態では、熱、光、衝撃に対して安定である。
反応性	: 他のものと接触が無ければ通常の状態では、危険な反応はない。 但し、アンモニウム塩、シアン化合物と混合すると、爆発を起こす恐れがある。
避けるべき材質	: 知見なし

11. 有害性情報

刺激性	: 眼、皮膚や粘膜に強い刺激又は重篤な腐食がある。
急性毒性	: 知見なし
慢性毒性	: 知見なし
がん原性	: 知見なし
変位原性	: 知見なし
生殖毒性	: 知見なし
催奇形性	: 知見なし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	: 知見なし
水生環境慢性有害性	: 知見なし

13. 廃棄上の注意

内容物や容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

14. 輸送上の注意

注意事項：取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規制：

陸上輸送	: 消防法、労安法等に定められている運送方法に従うこと。
海上輸送	: 船舶安全法に定められている運送方法に従うこと。
航空輸送	: 航空法に定められている運送方法に従うこと。

15. 適用法令

労働安全衛生法	: 該当なし
消防法	: 該当なし
毒物及び劇物取締法	: 該当なし
PRTR法	: 該当なし

その他

主な引用文献：

1. 各原料メーカーのMSDS、SDS
2. 安全衛生情報センターMSDS、SDS
3. JIS Z 7252、7253
4. その他法規

記載内容の取扱い：記載内容は、現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、注意事項は通常の取扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いの場合は、新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。